

第 20 回 交換留学の中で学んできた「開発」

皆さん、はじめまして。School of Oriental and African Studies, University of London(SOAS) において開発学を学んでおります、大槻舞理子と申します。私は、現在、日本の慶應義塾大学法学部政治学科に所属しておりますが、大学の派遣交換留学によって、2003年9月より、一年間のプログラムで SOAS に留学しております。

このコラムでは、なぜ SOAS を留学先に志望したかを含め、交換留学生として SOAS、そして留學生活の中で学んできた開発について書かせていただきたいと思います。

【SOAS を交換留学先として選んだ理由】

大学では政治を専攻し、政治学という観点から地域開発について学びたいと考えておりました。しかし、一億層中流といわれる日本の中で、似たような生活水準の中で育ってきた人々と共に学ぶだけでは、私の望むような地域開発の学び方はできないのではないかと考え始めました。そこで、開発学を専門的に学ぶことができ、かつ、豊かかもしれないし、貧しいかもしれない様々な国で育った人々と席を並べて授業を受け、共に生活していくことで地域開発を単なる学問以上の実感として学ぶチャンスが大きい大学で学びたい、と考えた結果、開発学に力を入れ、かつ発展途上国からも多く生徒を受け入れている SOAS を交換留学先として選びました。

このような経緯のもとに、SOAS への留学が決定し、2003年9月より、正式に SOAS で開発学を学び始めることとなりました。交換留学生は、日本での専攻内容に関わらず、教授の許可が下りさえすれば、どのコースの授業でも履修することができます。ここからは、私が今年度履修した四つのコースに関する簡単な説明、そして SOAS において開発を学んできて感じたことについて書いてきたいと思います。

【SOAS での履修コース】

私は Development Studies, Economics, そして Political Studies の三つの学部から四つのコースを選択しました。以下の四つが、私が履修したコースになります。

1. BA Development Studies: Theory and Evidence in Contemporary Development
開発学における重要なトピックに関して、様々な理論やそれに関する論争(Theory)を統計やケーススタディ等(Evidence)とともに検証し、開発における現代の問題を様々な視点から学んでいくコースです。
2. BA Development Studies: NGOs, the Third Sector and Development Policy
このコースは、開発において重要な役割を果たす NGO について学ぶものです。まず NGO が開発においてどのような役割を果たしているかを幅広く、理論や現代の傾向などと合わせて学習します。そして後に NGO の運営やマネジメントに関する問題について学びました。

3. BSc Economics: Economic Development of Africa

このコースは経済学部のもので、MA, MSc, そして BA 等、異なる学位の生徒が共に、同じ講義を受講する形式になっております。Term1 ではミクロ経済問題を扱い、そしてTerm2 はマクロ経済が中心となっています。Term1, 2 を通して、開発、そしてアフリカの抱える様々な問題を、経済的視点から追及します。

4. BA Political Studies: Politics of Development

経済成長、発展において、政治的要素がどのように影響を与えているかを学習してい

きます。様々な政治体制や政策が開発に与えてきた影響を、アジア、ラテンアメリカ、そしてアフリカの地域別に学びます。

2004年5月16日現在、今年度は残すところ期末テストのみとなり、最近はロンドンにおいて、私なりに学んできた「開発」について、振り返り、ある程度は、自分の考えをまとめあげてみたい、と考えてみる毎日ではありますが、開発とは、学べば学ぶほど、そして考えれば考えるほど、広く、そして奥の深いものだと実感いたします。

四つの異なるコースではありましたが、それぞれが密接に関係を持っており、さまざまな視点から開発を考えることができるとともに、一つのコースで学んだことを、また別のコースにおいて理解を深める、という非常に有効な効果があったと思います。その中で、一つの事柄も見方や視点の違いによって、異なる問題を持ってくるといふ、当たり前かもしれないことを、それをこの一年間で痛感させられたように思っております。

【SOAS の BA】

BA のコースは、MA において学位を取る方々と比較すると、確かに、開発関連のフィールドで活躍されていた方は、MA よりも少ないですし、全体的に経験値としては低いのかもかもしれません。それでも、発展途上国で生まれ育った方は非常に多くの割合を占め、ディスカッションでは、それぞれの経験や学習してきたことに基づき、活発な議論が行われてきました。正式な職員として、または、インターンやボランティアを通して、途上国と関わってきた方々もあり、そのような人々と議論を交わし、異なる環境で生まれ育ってきた人々が、どのような考えを持っているのかを聞き、様々な話をすることで信頼関係を築いていくことは、自分とは文化も生活習慣も異なる人々と、開発という共通の目標を実現させていくための重要な訓練となったのではないかと考えております。

【留学生活の中で出会った人々】

SOAS には様々な国から生徒が集まっており、“multiculturalism”という言葉がふさわしい大学だと感じています。SOAS、そしてロンドンでの出会いを通して、同じ日本出身の方を含め、様々な背景を持つ人々と知り合い、お話を伺う中から学ぶことのできた「開発」も非常に多かったと思います。少しでも現

地で何かを見てみたい、という思いからアフリカに旅をした経験からも、現地でいろいろな人と出会い、現地の生の声を聞いたことで、それまで自分が教室の中で学んできた知識が、どれだけ僅かなものであるかを痛感したこともありました。南アフリカでアパルトヘイトが廃止される頃、現地にいた友人とアパルトヘイトについて話したことがあります。友人は黒人ですが、生まれた時に、すでに南アフリカはアパルトヘイトが当たり前のよう存在してありました。友人は「まだ若かった頃は、アパルトヘイトという制度が、自分達を排除するための制度などと考えたことはなかった。白人と、それ以外の人種の人々が分離されることが、おかしいことなどと深く考えることもなかった。自分が大人になるまで、世間で当たり前前に制度化されていることが、おかしいことなどと、思ったことはなかった。」と言いました。物事がいかに簡単に正当化され、それがいかに簡単に浸透してしまうのか、などということを考えさせられた出来事でした。また、発展途上国で生まれ育った人、また途上国と関係を持つ仕事をされていた方などに、「途上国が抱える問題を深く考えることもせず、気楽な気持ちで、かつ、短期的な目でしか物事を見ることなく、開発に携わろうとする人間は偽善的にみえる」と言われたときには、自分自身が起こす行動が相手・他者にどう影響していくのかを長期的な目で考えることの必要性を感じたとともに、まずは自分が胸を張って「私は『開発』をこういうものだと考え、私はこのような形でそれに貢献していきたい」と言えるようになりたいと強く思いました。

【留学生活の終盤を迎えて】

一年間の交換留学のプログラムも、そろそろ終わりを迎えようとしています。夢や理想、希望を抱いてロンドンにやってきて、かねてからじっくり学びたいと思っていた開発学関連のコースを履修し、多くの人と出会い、新鮮な出来事が続く中、時には、生活のリズムをつかむこともままならず、留学生生活を充実させることを難しく感じることもありました。この一年間で、非常に多くを学ぶことができたことと確信しておりますが、現在の正直な気持ちを申し上げますと、自分がこれまでロンドンでの留学生活から学んだものや得たもの、感じたことを、どれだけ自分の中で消化し、吸収できたのかと思うと、やはり、まだいろいろと考える点が多々あり、自分なりに納得のいく答えにたどりつくには、まだまだ時間がかかりそうです。「開発」をどう考えるか、開発にどうアプローチしていくかについて、テスト勉強の中でこの一年間で学んできたことの総まとめを行いながら、そして最近の新たな出会いの中でも、次々に新しい考えや、異なる視点に出会い、更に、自分の中で様々な考えが渦巻いているような気持ちです。しかし、ロンドンに来る前も、そして今も、変わらずに持っている考えは、「社会を変えるには、まず人が変わらなければいけない」というものです。私自身も、社会を変えるきっかけをつくるために、日々成長していく存在でありたいと思うものです。私が目指す「開発」というものがどのようなものか、まだ曖昧ではありますが、この一年間で学んだものを、日本に帰国しても忘れず、残りの大学生活の中で、そしてそれ以降の人生の中で活かし、糧にしていく中で、時間をかけて、形にしていきたいと考えています。

そして、最後まで私のコラムにお付き合いいただき、まことにありがとうございます。何かコメント等ありましたら、是非お伺いしたいと思っております。どうぞよろしくお願い致します。

2004年5月16日

慶應義塾大学法学部政治学科4年

School of Oriental and African Studies, University of London に慶應大学派遣交換留学中

大槻 舞理子